

「平和教育のカリキュラム」 質問と意見

今日の題材について、質問やご意見をお書きください。

- アートや創作活動や、探求学習を協働でするプロジェクトをすることは平和教育の一環としてなされる可能性があるでしょう。
- アルゼンチンや南米での軍政下において、地下活動として教師が抵抗運動として平和教育の実践交流をしていたと聞いています、
- 人権学習は法制化されているので、どのようになされているか関心があります。平和教育と人権教育はかなりちかいと思います。
- 被爆地長崎で平和教育に関わる取り組みをしています。多角的、多面的な視点で、といいつつも、実際はある種の価値観の押し付けになりがちであり、平和を多様な価値観で考えることの難しさを感じています。質問でもないようなものすみません。
- 広島や長崎の平和教育カリキュラムは、広島・長崎、原爆という文脈を色濃く反映したものであると思います。平和教育が地域に結びついて行われていくものである場合、仮に他の地域で平和教育カリキュラムを作成する際には、それらの間で微妙に異なった方針も含まれてくることが予想されます。その時に共通の目標・願いとして日本の平和教育は何を設定するかということを考えていく必要があると思います。

Q. 教育活動の中で平和形成することが目的になっていると思いますが、それは具体的にどのようなことが活動としてあげられるのでしょうか。

A. 平和形成方法についての学習目標については、中学校では、「解決すべき平和の課題を探究し、自分の考えをまとめるなどの学習を通して、世界平和に関わる問題について考察し発信できる」。高校では、「望ましい紛争解決のあり方についての考察を深めるなどの学習を通して、主体的に平和の尊さや人間の尊厳についての認識を深め、より平和な社会の実現について展望し発信できる」活動をあげています。

○前便が届いていないようですが、教科でのこと。国語や英語では平和を学ぶような題材があると思います。

Q. ①平和教育の中でも、知的な認識、実践的な認識の学びが不足しています。それらを広めるために必要な事は? ②広島市、長崎のような熱心な都市ではなく、静岡で、新たな平和教育を広めていくために有効な事は...? 悩んでいます。

A. ①平和教育における「知的な認識を広める」学習は教科の学習が深く関わります。国語や社会の教科の中での平和学習により、戦争に関する知的な認識を高めることができます。「実践的な知識の学び」としては、参加型の平和学習により、平和問題への当事者意識を高めることができます。次のサイトで「平和教育の方法」を提示しています。

<http://peace-education.info/murakami/peaceed/peaceedindex.html>

A. ②地方自治体と平和教育の協働について、「地方自治体の平和啓発事業と学校教育との協同」（村上登司文 2011『広島平和科学』33 巻、p.27-48）の文献があります。

Q. 戦争のときに、平和教育ができない理由をもう少し詳しくお話して頂きたいです。

A. 戦争が起こると平和教育ができなくなる理由は、戦争中は学校教育が戦争遂行のために戦意高揚に資することが政府から期待されます。平和教育の中で、平和を主張して戦争に異議を唱えることは国民の戦意をくじくので愛国的でないと、戦争遂行側（政府や在郷軍人会）から批判を受ける事が多くなります。

○教科でのことはお話しになかったようですが、国語や外国語ではさまざまな教材があると思います。

Q. 広島や長崎の平和教育カリキュラムは、平和教育研究の成果をふまえて更新されてきたものでしょうか。あるいは、あくまで実践ベースで更新されてきたものでしょうか。

A. 広島の平和教育プログラムの開発や策定過程に関する特徴として次の説明があります。①行政、学識経験者、学校関係者、市民（NPO 法人等）で構成する策定委員会や作業部会を組織し、多様な視点から開発・策定されている。②心理学及び教育学の専門家による効果検証の結果を踏まえて策定されている。さらに、効果検証に関わったト部らは本プログラムの学習効果として、「児童生徒の原爆投下をめぐる知識が精緻化されたこと」、「平和な社会の構築の為に平和学習が大切だ」という認識や平和構築に向けた各国の取組への関心が向上したこと」等を指摘していることが述べられています。したがって、ある程度の実践のデータに基づきながら、平和教育研究成果をふまえて更新されたといえます。

Q. ESD の視点について、具体的にはどのように平和教育を取り入れたら良いでしょうか。

A. ESD（持続可能な開発のための教育）は、持続可能な社会づくりの担い手を育成するために行われる教育です。ESD においては、環境や貧困、資源などの問題を主体的に引き受けて行動し、持続可能な社会を実現する力を育むことが目標とされます。このような題材を学習し、活動する力を身につけることは、積極的平和を実現するために必要なことといえます。したがって、ESD は広義の平和教育と連携する教育領域と位置づけられます。